

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	王 佳琪 (おう かき)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 博士二年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 7 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	25th International Conference on Human-Computer Interaction
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	王 佳琪
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	Experimental Design and Validation of i-Comments for Online Learning Support
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>今回「Experimental Design and Validation of i-Comments for Online Learning Support」というテーマでプレゼンテーションを行なった。</p> <p>オンライン学習は学習者の孤独感やサポートの不足などの課題が存在する。本研究では、オンライン学習の動画コンテンツを視聴する際に、学習者に適する個性化コメント (i-Comments) を動画と共に画面上を流れる方法を提案する。i-Comments 提示のタイミング、内容、数量はそれぞれ定義されて、学習者の学習状態を示す指標として集中力、疲労度、ストレス感、認知負荷などには適切な範囲を維持可能にする学習支援モデルを構築する。提案の i-Comments モデルを用いて学習パフォーマンスと満足度を向上できるか実験的に検証する。</p> <p>実験は、3 つのグループの対照実験を行った、それぞれがビデオのみ、ビデオと i-Comments パターン 1、ビデオと i-Comments パターン 2 を視聴するように指示された。ビデオ視聴中には、被験者の集中力をアイトラッキング装置で検出し、平静な状態は emWave システムでモニタリングした。ビデオ視聴後、被験者は理解度をテストする、認知負荷、疲労感、孤独感、満足度を調査するためにアンケートを行った。</p> <p>結果として、関連知識がある、1 分あたり 6-9 個、そしてビデオの後半を視聴する際に出た i-Comments、つまりパターン 2 が、学習理解を有意に向上させ、学習満足度を高め、平静な状態を維持し、そしてオンライン学習における孤独感の軽減に有効であることが明らかになった。</p> <p>URL: https://doi.org/10.1007/978-3-031-34411-4_15</p>	

※無断転載禁止